シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第20回

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

中部森林管理局技術普及課
井上（いのうえ）　日呂登（ひろと）

「白鳥貯木場（しろとりちょぼくじょう）」その一

貯木場は丸太を集積する場所ですが、名古屋市熱田区の堀川沿いにあった白鳥貯木場は歴史も古く巨大なものでした。江戸時代初期に名古屋城の築城の際に使われた材木や船の置場が始まりだと考えられています。

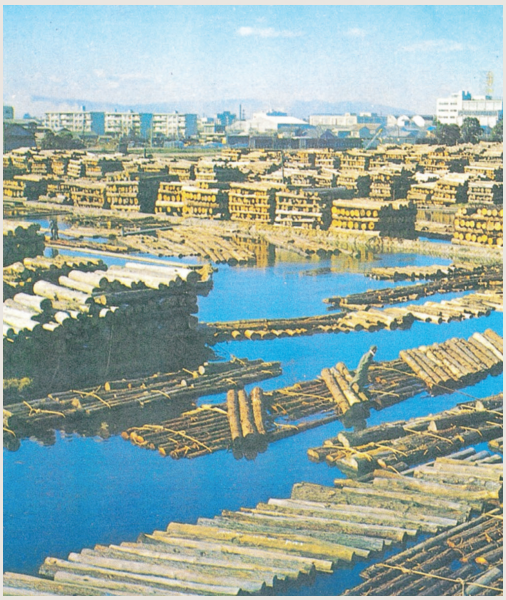
［上写真］明治時代末頃の貯木場風景

［下写真］起重機による積み上げ（大正十年代）

江戸時代、明治時代は木曽川のイカダを使った運材の終着点でしたが、大正時代からは鉄道によっても木材が運び込まれるようになります。後にはトラックによる運材の時代を迎えます。

貨車からの荷卸（大正10年代）

白鳥貯木場は中部地域の代表的な木材流通基地として多くの人・木材が出入りし、周辺には多くの木材業者が軒を連ねました。しかし、昭和四十三年には名古屋市外に西部木材市場が作られたことにより木材業者の多くが移転し、輸入材の増加といった時代の変化もあり、取り扱う木材量は減少していきました。貯木場の機能は平成八年に廃止となり、現在は跡地の一角に中部森林管理局の名古屋事務所と「熱田白鳥の歴史館」が置かれています。



昭和40年代前半の貯木場風景

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むか～しの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、ＱＲコードを読み込んでください。